

〜 13
3140
4



門へ13
3140
巻4

駿河志

翠帳紅閨萬事之禮法雖異編蓬白屋一生

之歡會是司。朗詠。葛の袴。由をりめ正しく。あひ

く。小四方を捧りら。徐かふ歩も。夫婦が間。はう。あくを。そんまへ

千年を壽との土器。う。妹と夫が命を縮む。短刀之。渡海。い。あひま

と。愛情極め。身も今。う。ま。あひが。げね。は。つ。の。さ。う。打。登。く。を。電。王

八目をり。く。諭。せ。が。又。三。郎。儼。然。形。を。め。く。あ。ま。く。中。を。れ。電。王。渡

海。も。よ。く。笑。さ。あ。く。仁。毛。礼。智。忠。信。孝。悌。の。八。の。月。の。人。間。一。生。涯。の

守。奉。尊。り。そ。の。一。つ。う。の。由。缺。と。見。へ。終。は。世。は。主。を。を。れ。を。と。ま。さ。る

の。ま。ぶ。あ。い。じ。と。あ。ふ。ふ。女。女。ま。ま。は。魂。を。奪。れ。主。の。要。金。を。遣。ひ。失。ひ

刺。居。家。滅。亡。の。日。あ。ま。う。の。れ。む。女。性。幼。君。の。お。ん。往。方。が。あ。ま。あ。い。じ。と

内容。と。ま。ま。あ。い。じ。と。あ。ふ。ふ。女。女。ま。ま。は。魂。を。奪。れ。主。の。要。金。を。遣。ひ。失。ひ

刺。居。家。滅。亡。の。日。あ。ま。う。の。れ。む。女。性。幼。君。の。お。ん。往。方。が。あ。ま。あ。い。じ。と

内容。と。ま。ま。あ。い。じ。と。あ。ふ。ふ。女。女。ま。ま。は。魂。を。奪。れ。主。の。要。金。を。遣。ひ。失。ひ

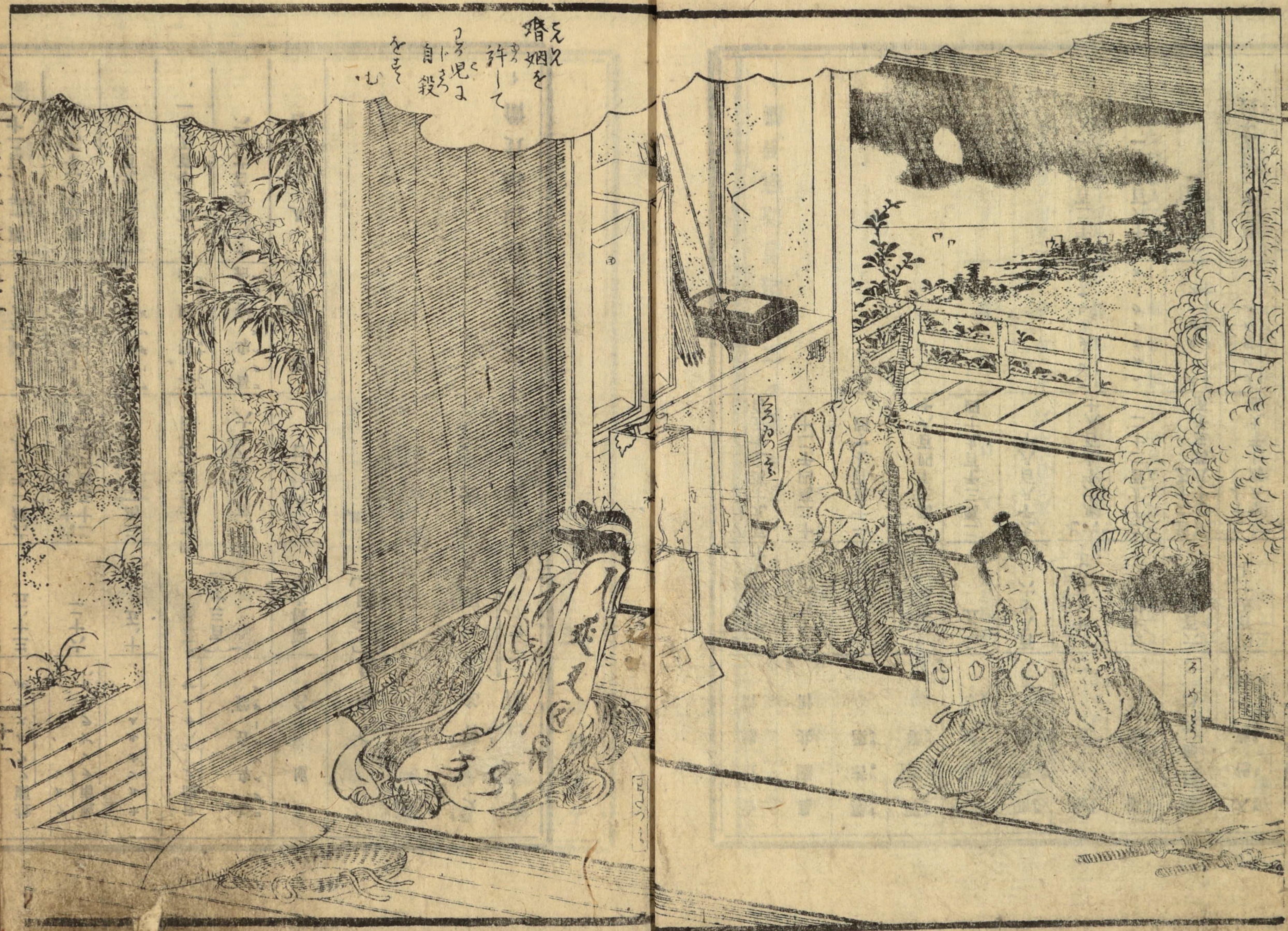
刺。居。家。滅。亡。の。日。あ。ま。う。の。れ。む。女。性。幼。君。の。お。ん。往。方。が。あ。ま。あ。い。じ。と

内容。と。ま。ま。あ。い。じ。と。あ。ふ。ふ。女。女。ま。ま。は。魂。を。奪。れ。主。の。要。金。を。遣。ひ。失。ひ

刺。居。家。滅。亡。の。日。あ。ま。う。の。れ。む。女。性。幼。君。の。お。ん。往。方。が。あ。ま。あ。い。じ。と

昭和九年
九月十二日
購求

婿を
許して
見よ
自れ
殺す
を



たり。かた犬自物るれど。牙のお丸知るはす。不死んとて。ひ定めても。
 それ由女くく。むらうのゆせど。渡海を携来く。親の家を踏あし。
 六十又餘る三郎を。虚気りのあし。傷りぬざり。おまうのあし。うらまへく。
 夫婦のうらまへ。又か臍を舐さん。と計救する。不孝不忠を。こゝを親
 へ免とて。由。自王天のぞ。許しありん。それの村語。お老朽く。聖の教。はくも
 あし。ぬど。教びく。子よ。孝行を。おまうのあし。あし。女を。電王と。名。おまう
 する。の。電の。一名。を。玄武と。稱。その。形。譬。が。武士の。甲。うらまへ。は。改。ま。を。電。乃
 入。ま。を。甲。と。号。く。甲。の。則。遣。り。六。を。藏。し。て。物。は。傷。ら。れ。大。地。と。共
 お。命。長。う。れ。と。て。その。名。と。り。あ。ま。う。を。守。る。又。次。男。を。蟻。王。と。名。は。け
 する。の。蟻。の。名。を。え。と。勇。む。の。あ。り。食。の。と。見。ハ。ゆ。く。を。名。を。息。く。と。
 かの。蟻。死。を。見。バ。員。と。名。を。な。す。蟻。と。名。を。虫。よ。名。を。副。し。れ。バ。名。を。その。名。
 お。表。す。く。と。れ。バ。見。お。小。種。を。より。物。統。し。手。習。し。擊。劍。奉。法。由。人
 ろ。不。教。く。の。行。の。為。ぞ。小。耳。又。扱。し。忠。孝。の。道。踏。迷。く。借。金。の。淵。よ
 と。ま。り。泥。電。の。泥。り。て。親。の。面。を。汚。す。白。後。よ。ひ。す。く。た。れ。ど。ぬ。く。一
 代。領。地。ハ。永。代。の。水。江。と。法。勝。寺。は。属。られ。と。ま。バ。俊。寛。僧。都。ハ。つ。ふ
 為。よ。主。君。と。ま。う。と。ま。の。あ。し。ね。ど。女。本。名。才。を。進。り。せ。り。子。の。ま。う
 禽。せ。り。以。慈。愛。の。有。が。う。系。さ。ふ。あ。う。後。の。領。主。の。民。と。う。く。へ。と。ま。ら
 め。の。む。これ。は。既。よ。ゆ。の。ぞ。女。本。の。思。顧。の。あ。り。り。倘。あ。ま。う。り。由
 思。を。ふ。く。バ。揚。貴。妃。小。町。よ。恋。う。と。由。と。む。く。と。か。の。あ。る。恥。を。あ。す
 自。叙。せ。よ。牙。の。中。の。腐。ハ。い。毎。洗。除。さ。ん。が。後。よ。愈。む。の。で。成。借。し。て
 於。ま。せん。ぞ。と。刀。突。立。居。丈。高。く。老。の。怒。の。烈。く。見。よ。渡。海。の。悲。し。く。こ
 電。王。ぬ。く。科。ハ。あり。縁。故。ハ。あり。け。り。その。お。ん。怒。を。牙。一。つ。よ。ひ。ひ

くらと由びてはあかぬ。只前世の悪縁と必ひくく是れをせむの。おん續
 を末朝の水より。うち由流しくろろま。夫婦りろとも殺しと。とす
 授りくはより。亀王の只れをん入く。額の行を膝よりけさ。又は對し
 ちうとやう。鹿を逐ふ。獠夫山をえど。と恋暮の癡情よ。忠者を。おひ
 忘し。過を改む。恨ハ又を斬ると。お母さん。が女子と共は情死して
 ろ。死後おでんより。親同胞よ。面目を失ハせん。ハ亀王の。志よゆ
 かねど。いづく。渡海よ。泣叫れ。己とを。必ど。おと。の。外。最期
 暇を。おと。せん。と。罪を。倍。ハ。ひ。と。と。い。う。の。日。渡
 大渡。おと。才。蛾。王。環。會。る。彼。あ。く。罵。耻。め。と。案。の。前。口。就
 子の。在。知。由。問。ぶ。と。え。と。恙。あ。く。坐。と。る。の。彼。が。執。行。ハ。う。と。と。あ。と
 ありぬ。世の。捨。れ。ども。せ。は。捨。れ。と。狼。狽。め。を。子。を。れ。が。も。親。が
 くら。自。殺。を。と。め。く。老。の。手。づ。ろ。及。借。し。く。お。と。る。その。慈。の。さ。を
 負。入。重。を。罪。科。を。り。お。せん。や。渡。海。受。取。究。く。ま。り。よ。今。と。う。歎
 く。ろ。う。と。尻。目。小。の。け。の。ひ。筋。押。肌。腕。ハ。強。惟。子。六。字。の。名。号。墨。黒
 小。口。あ。も。唱。る。渡。海。ハ。携。る。袂。を。う。ち。携。ひ。小。四。方。を。と。り。戴。き。短。刀
 と。と。と。と。技。放。つ。又。お。め。と。竹。筥。ひ。り。不。害。と。亀。王。ハ。渡。海。と
 目。を。え。の。い。呆。る。と。又。も。吟。笑。ひ。亀。王。を。れ。を。何。と。と。ん。夫。劍。も。人
 を。斬。る。牙。を。傷。る。の。あ。ら。と。君子。の。名。を。帶。ぐ。の。衛。士。ハ。英雄
 等。科。重。を。の。腹。切。る。真。劍。を。許。さ。れ。扇。を。と。り。と。れ。お。摺。り。三。郎
 今。竹。刀。を。授。け。扇。腹。の。う。ろ。う。り。汝。が。白。物。ハ。腹。切。る。と。を
 う。由。と。と。又。が。教。と。る。と。せん。と。切。せ。よ。の。い。ひ。お。め。の。刀。問。り。と

引抜つ。腹へ突くまは。とて。龍王の竹石捨く。渡海と。
 左右より携り。田物。手取ひ。ゆり。ん。その竹友の自殺。と決す。か
 小向夫婦。を。さ。え。り。見。息。を。吻。行。ゆ。意。由。る。ぬ。焼。野。の
 維子。夜。の。鶴。北。を。真。以。雜。を。あ。い。ど。木。石。ふ。れ。り。餘。命。い。く。行。ゆ
 の。ぬ。三。郎。が。皺。肚。切。り。見。代。當。終。罪。の。贖。ふ。う。さ。う。ま。を
 夫婦。り。ろ。と。ゆ。ふ。幼。君。女。性。の。あ。ん。在。如。を。遠。き。入。美。ひ。つ。る。金。編。達
 して。中。勤。當。の。勸。解。を。せ。て。罵。勵。せ。し。ゆ。子。が。才。也。と。血。流
 の。ま。ま。空。う。ろ。ろ。ぬ。ころ。時。あ。の。下。び。の。恨。の。あ。る。り。の。を。そ。ま。り。由。許
 とも。許。え。ぬ。美。理。と。人。の。祥。な。れ。嫁。ゆ。り。う。り。さ。ひ。そ。と
 以。声。い。と。う。り。ゆ。り。お。ろ。集。く。虫。の。声。庭。の。木。を。こ。り。る。月。は
 諸。行。ず。常。の。数。を。ひ。く。哀。の。中。ま。と。初。更。鐘。生。平。う。り。耳。ゆ。改
 て。龍。王。の。拭。ひ。の。ぬ。臉。は。絞。る。血。の。涙。嗚。呼。慙。も。死。後。ま。又。の。非。命。
 つ。れ。の。え。と。あ。の。身。の。牛。裂。は。裂。き。と。も。罪。科。を。贖。ふ。る。母。是
 ら。ぶ。べ。い。命。代。り。あ。の。る。慈。悲。の。と。深。を。祝。を。り。つ。過。世。の。う。る。業
 同。ぢ。と。胸。を。敲。き。悔。歎。く。理。ゆ。れ。が。渡。海。ゆ。あ。ろ。が。歎。と。啣。と。れ
 て。お。れ。べ。い。と。あ。る。ま。は。三。國。あ。ろ。も。ゆ。ゆ。り。な。ん。の。と。只。一。言。
 末。朝。の。暇。あ。ろ。と。と。緯。逆。ま。あ。れ。完。初。の。ぬ。抱。を。と。る。ち。干。意
 る。と。月。夜。鳥。ゆ。夫。婦。が。う。を。啼。と。の。ま。ひ。け。り。し。と。嘆。ひ。り。け
 彼。方。此。方。より。ゆ。び。ほ。ま。が。三。郎。の。閉。り。眼。を。淵。と。睜。り。子。と。益。の。後
 悔。時。を。移。す。つ。か。一。命。へ。俊。寛。僧。都。の。思。は。答。へ。る。美。士。の。意。地。後
 の。領。主。の。民。と。う。と。と。あ。ひ。定。め。り。捨。る。身。を。子。あ。り。代。る。美。士。と。又。が
 遺。言。を。化。め。り。夫婦。非。命。の。空。く。る。と。が。却。り。の。親。は。大。死。さ。し。

子よりの糸

その紫を

笠や

巾の雨

自題 兼笠

うらみのま

うら王



忠子も訣孝もも虧人。人をも斬らざれば月も傷ぬ。その竹刀を記念と
 思ひく。直るる竹のさうりり。今こそ許と妹夫の縁今宵を結
 ぶ三三九献も又の黄泉へ水盃別の櫛の齒を挽く。冥土の御ひ
 近つ見ぬ。ゆきむら苦痛をささる。其れ放さざや。と焦燥く。右手の
 膳へ引ぬ。と刀尖を又抜出。振人奉の定ぬる。呪うはさう悔は
 倒る。屍を血よ塗目自由のささぬ分野より。夫婦一度は泣
 叫び。空骸よさる著く。ありひくようは口説と。田舎の隣由いと遠く。
 訪人げり夏夏の夜の。唧がす。虫の音よ月壊ん。と更園より。
 それ由西へと憑ひるる。又か亡骸とりあさめ。結且里人未よ若さ
 し。秋のぐ送葬と。雪を七七の追薦仏る。叮嚀よりの。度
 小亀王の渡海を伴ひく。故郷を去るる。れ。彼此を詳細。と。死

ハ夫人孺君の往方をあつんとし又のりて其の夫ひける金を調達
せんらと千の小肺肝を摧ぶ由。治業ごふるを退程人のその日と
経営うぬまごバ。穀の金をそのみづをよとごいなるれど又の遺言と
空しくせとと。夫婦送志を励し旅より旅より日をおくる程と秋
ふれ冬もなけと。治業元年の暮より。

第八套

抱二首 贈 雙言六

節婦案前の事

明治を治業二年の春より夏。夏の季より。終る中宮御産の所
のりたり。抑高倉院の中宮と入道相國の女児と。律ハ徳子安
徳天皇の御母とあり。後院号あり。建礼門院とす。せし
とあり。懐妊のめん怪物の怪のふ為こると。さうともゆれハ平
月三の日の教書をのりし。丹左衛門尉基安。難波三郎。住房と
相副と。彼嶋へ遣りたり。さればあり。罪あり。あるト嶋へ流されたり。俊寛
とあり。次あり。さう。の善政あり。と。小松内府と。練あり。い
と。平相國のさあり。昔時の恨をさひ忘と。いよ。腹のく。治
俊寛を召還と。ゆ。成経康頼と。九月下旬。嶋を去。肥前國
加瀬社ハ成経の舅。盛郷の所領あり。少將判官ハ彼也。
還。面と。その身を暮し。治業三年春二月。恙あり。帰。後と。
風声。隠と。狂。執。邪の夫人案の前ハ俊寛。と。を。救。
漏。え。と。と。ハ。鶴の前。徳。壽。丸。り。と。由。ハ。と。暮。
と。び。り。を。貪。慾。邪。性。の。案。山。四。郎。由。俊。寛。及。治。と。鶴。の。と。

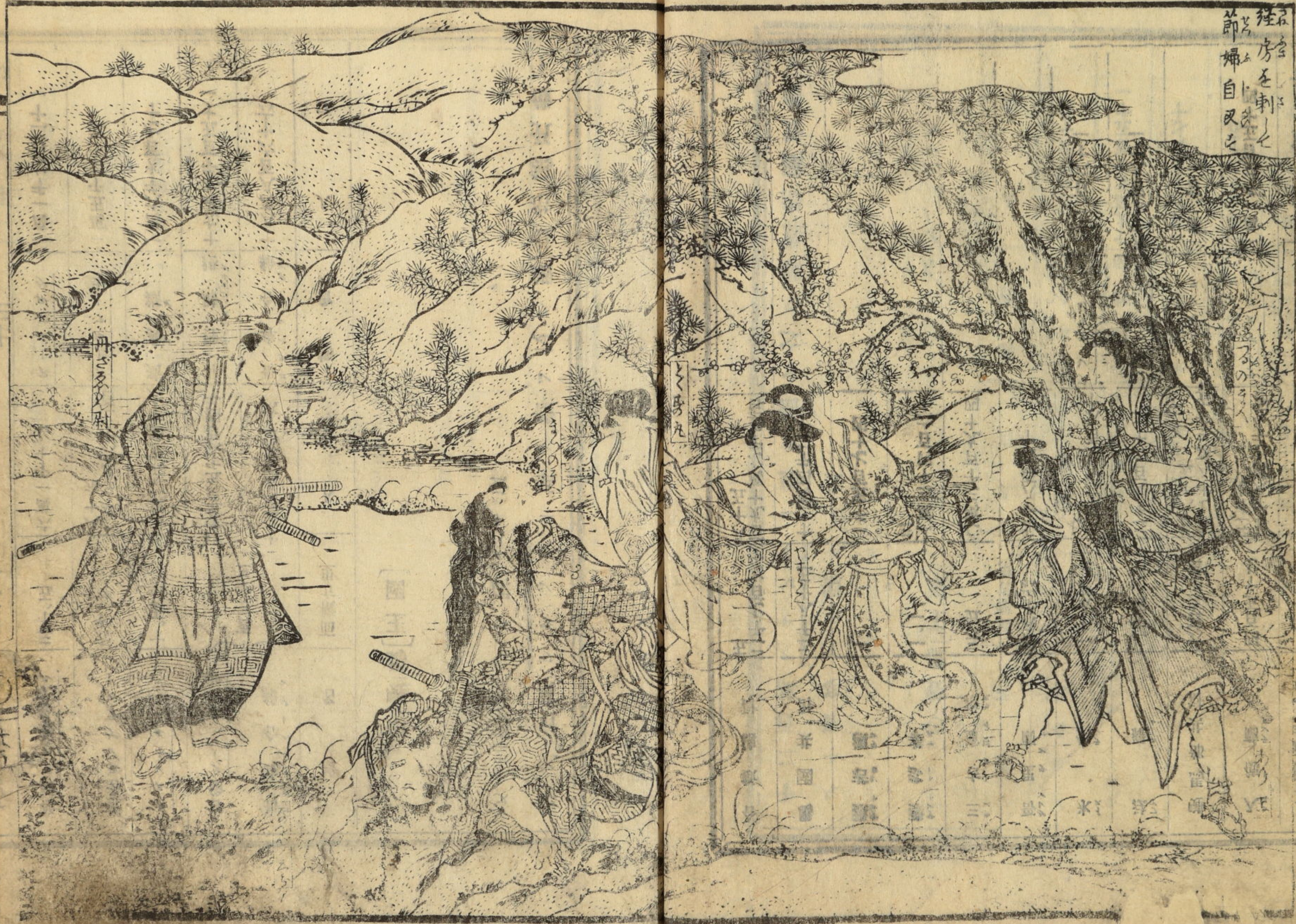
成経平判官康頼を赦免と。急を帰洛あり。と。治業七年
月三の日の教書をのりし。丹左衛門尉基安。難波三郎。住房と
相副と。彼嶋へ遣りたり。さればあり。罪あり。あるト嶋へ流されたり。俊寛
とあり。次あり。さう。の善政あり。と。小松内府と。練あり。い
と。平相國のさあり。昔時の恨をさひ忘と。いよ。腹のく。治
俊寛を召還と。ゆ。成経康頼と。九月下旬。嶋を去。肥前國
加瀬社ハ成経の舅。盛郷の所領あり。少將判官ハ彼也。
還。面と。その身を暮し。治業三年春二月。恙あり。帰。後と。
風声。隠と。狂。執。邪の夫人案の前ハ俊寛。と。を。救。
漏。え。と。と。ハ。鶴の前。徳。壽。丸。り。と。由。ハ。と。暮。
と。び。り。を。貪。慾。邪。性。の。案。山。四。郎。由。俊。寛。及。治。と。鶴。の。と。

不發迹もの。過分の恩賞ありとどやハ。と口か才の為ふれを飲び。
 信やう小官待り。即く鬼界嶋の流人亦聖去ハ入洛とせえ。
 子に宣ふやう。執柄ハの年未憂き嶋不捨く且や及京ハハ。
 居つ終んハるびく。子にあらもあういハ。宇治マセも俱くもけ
 かと仰まハ。蛟王蒼く。仰理よんぬ某孺君のあん供く。聖ま
 ほと老く。鳥羽マセもあうのひなるべうあひひい。が。女性の出迎へ
 ありん。政次の親も便り。見物の老弱是首彼首。群集せん致
 ありん。く。そあく終りひてんヤ。とやうとら案の前微笑く。執柄の
 嶋不在る福ハ。世を也憚り。既免るれ。及り。ハ。政次の狼
 藉。の。く。は。女。の。鬼。界。嶋。は。過。り。の。由。也。

け。の。の。と。宣。ハ。黙。止。ま。し。く。男。姓。は。縁。由。を。考。へ。蛟。王。夫。婦。
 結。且。ま。た。兄。の。三。人。の。主。を。扶。掖。す。その。日。ハ。東。寺。の。四。塚。ハ。一。宿。ハ。次。且。宇
 治。の。河。り。ま。で。い。れ。く。少。許。引。入。ま。る。芝。生。の。松。か。枝。ハ。齋。し。ら。破
 幕。を。結。び。著。主。後。頂。を。長。く。今。く。と。終。は。な。午。の。貝。吹。比
 及。二。輜。二。袂。庭。ハ。見。也。洛。の。親。族。出。の。ひ。ぬ。と。海。く。く。人。野。後。方
 先。方。ハ。あ。さ。か。り。と。公。是。る。め。と。蛟。王。忙。し。く。き。り。出。り。誰。と。問。ふ。
 丹。波。女。將。と。平。判。官。の。汝。は。い。ん。と。答。ふ。あ。ま。ば。法。師。寺。の。釋。
 け。ハ。後。れ。也。を。問。ふ。吾。人。の。マ。セ。も。あ。う。と。い。ハ。ハ。と。判。り。た。れ。び。と。ら。
 小。遣。り。と。す。且。く。又。一。袂。の。輜。を。先。小。昇。ハ。六。波。羅。の。侍。丹。左。衛。門。
 尉。基。安。馬。上。の。く。出。外。ま。る。同。ま。を。あ。う。と。是。る。め。と。案。の。前。
 子。ハ。安。良。子。ハ。幕。を。揚。す。待。り。ハ。同。近。く。あり。ぬ。當。

王ハ轎の左ネよまゝ。若黨ハ袖を引く。是ハ俊寛僧都の夫人
 二人の子をとおく。迎へるる。僧都もあつた。と礼儀
 を正しく述べ。バ。轎を幕の母より扛せり。ゆゑはつら
 しく。親子三人走り。忙しく轎の戸を引開き。俊寛も
 難波三郎。経房。裡より案の前の手をさぐる。中より立出。冷
 笑ひ。歌を挿め。陥穽をりつ。魚を釣る。ハ。蚯蚓をりて。これ
 の如く。平相國の仰を稟密。案の前の往方を去る。不絶々
 その在知を。あつて。此度成経。康頼。帰洛の叙。俊寛あり。人
 と。よ。戻。と。風声。流。し。と。あ。と。と。主。後。ら
 驚。王。矢。度。は。経。房。を。搦。ひ。退。る。夫。人。を。後。方。よ。ま。り。油。断
 彼ハ左右より。折。ゆ。り。ら。ど。あ。つ。ま。の。み。く。ま。り。る。浩。知。丹。左。邊。つ
 尉。基。安。ハ。馬。を。あ。り。け。け。と。を。り。ま。准。俊。の。床。几。を。も。り。り。て。後。者
 亦。あ。り。や。吾。侪。兩。人。ハ。且。く。あ。知。不。所。要。の。ハ。汝。亦。ハ。あ。り。彼。知。る。平
 等。院。も。あ。り。割。籠。を。用。え。放。ち。休。足。せ。よ。と。い。ふ。か。い。ら。れ。た。ま。り
 経。房。が。奴。隸。亦。ハ。轎。を。擡。起。し。打。つ。と。と。と。平。等。院。へ。去。ぬ。基。安。見
 を。目。送。り。て。案。の。前。主。役。に。對。し。俊。寛。帰。洛。と。笑。え。し。程。よ。と。い。ふ。あ。つ。た
 ち。び。あ。り。た。め。あ。り。た。ゆ。俊。寛。僧。都。ハ。平。相。國。の。情。を。あ。り。し。ま。し。休。た
 を。り。て。と。い。ふ。嶋。を。送。さ。れ。し。と。説。示。せ。ば。親。子。主。役。は。ゆ。の。て。と。い
 そ。ゆ。の。と。疑。ひ。あ。り。し。と。一。度。不。注。沈。む。難。波。三。郎。に。れ。を。ん。と。い。ふ。と
 う。ら。笑。ひ。さ。の。を。穿。て。入。る。母。偽。ら。と。も。あ。り。た。ま。り。詳。し。説。あ。り。

俊寛傳卷之三
 九



経房を刺して
節婦自刃す

竹園卷之三十一

一巻四葉

領諾のく相國由。さうを飲ひまふづん。さう
 先もさう油断なぞどく。案の前ハ経房
 膝ぐさと刺さる。倒るころを繋ぎ
 不。経房もあなえの剛弼を案の前
 忽ち又反く。蟻王つとよせめ。難
 不捻挫バ。女もさう念力の巖由微と
 難波ハ極く息絶。鮮血溢る屍の
 持る又を吃より。項へつぬを伏
 毒安良子りさゆふ。まうらうつ抱
 上。交所を罫て。律断。且む二人の子
 ゆめさる。瀆る血と漏る。涙は居思
 忍び。丹左。尉基安ハ。備軍の討
 を助けむ。床ル。又死。この景述を
 案の前。對ひ。夫人の養父成親卿を
 武士。由。奇特の挙動。飽す。時め。平
 を。俊寛僧都の志。案の前ハ。その人
 兄。経達。等。奸邪。對。癖者。平
 相國。密。案。配所。殺。俊寛僧都
 帰洛。阻。此度。嶋。夫。計。理。掲
 を。禁。僧都。配。の。可。惜。烈。女。を。殺。本
 母。忍。び。可。惜。烈。女。を。殺。本
 意。経房。の。悪。棍。僧都。の。後。

領諾のく相國由。さうを飲ひまふづん。さう
 先もさう油断なぞどく。案の前ハ経房
 膝ぐさと刺さる。倒るころを繋ぎ
 不。経房もあなえの剛弼を案の前
 忽ち又反く。蟻王つとよせめ。難
 不捻挫バ。女もさう念力の巖由微と
 難波ハ極く息絶。鮮血溢る屍の
 持る又を吃より。項へつぬを伏
 毒安良子りさゆふ。まうらうつ抱
 上。交所を罫て。律断。且む二人の子
 ゆめさる。瀆る血と漏る。涙は居思
 忍び。丹左。尉基安ハ。備軍の討
 を助けむ。床ル。又死。この景述を
 案の前。對ひ。夫人の養父成親卿を
 武士。由。奇特の挙動。飽す。時め。平
 を。俊寛僧都の志。案の前ハ。その人
 兄。経達。等。奸邪。對。癖者。平
 相國。密。案。配所。殺。俊寛僧都
 帰洛。阻。此度。嶋。夫。計。理。掲
 を。禁。僧都。配。の。可。惜。烈。女。を。殺。本
 母。忍。び。可。惜。烈。女。を。殺。本
 意。経房。の。悪。棍。僧都。の。後。

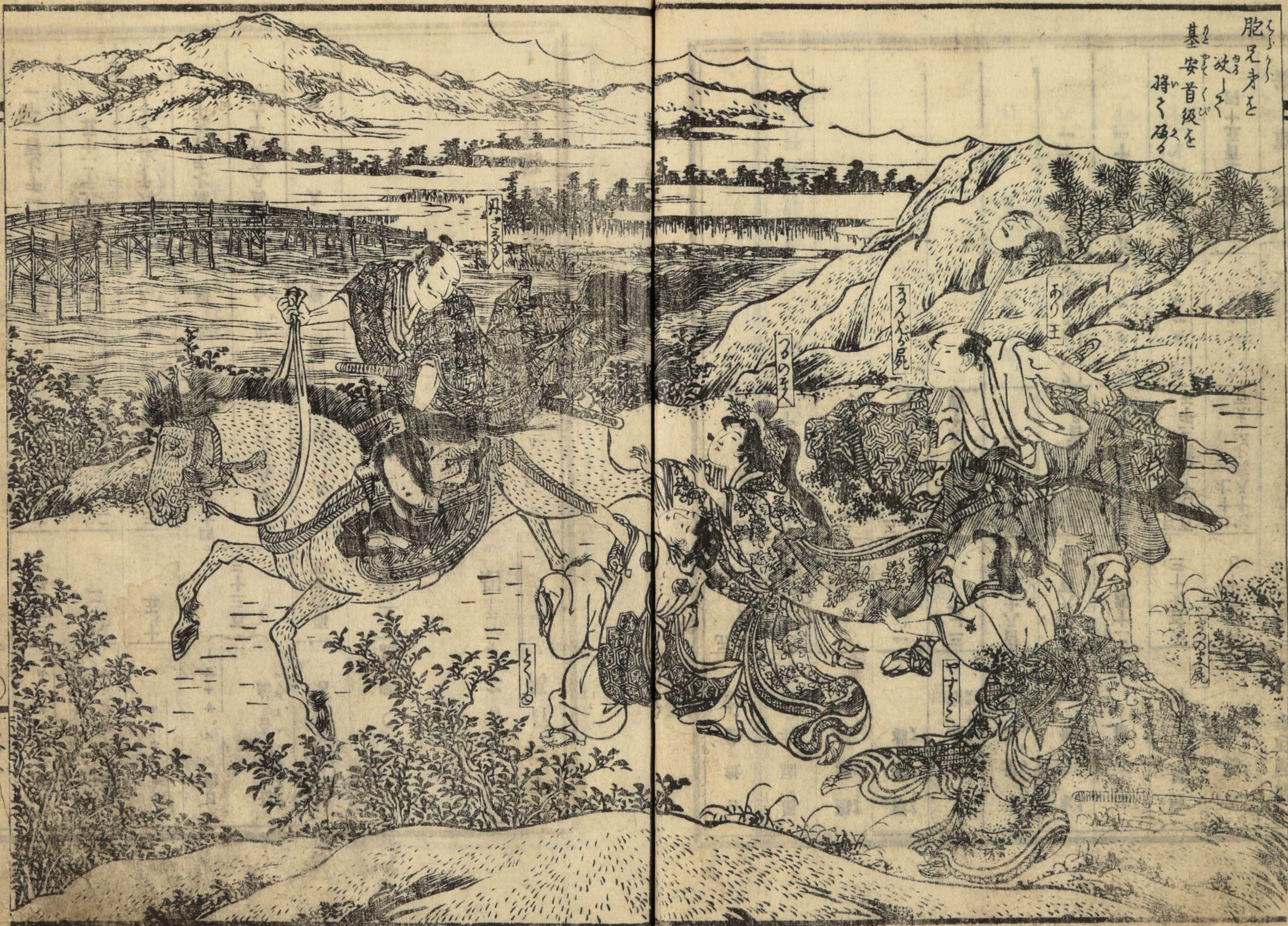
をりく。彼が後者を速離し。これ侍の情あり。主君は悪をすませ
 しく。僥倖をえん救ふあまのしと。お基安が忠あり。と鏡示せ
 主後さくいの。とうちん改感候。さめめくざりたる。案の前息の下
 基安を伏洋も。アが良人大赦よりんとも。恙なく鳴み中を
 先内なる一言の。智識の引導あり。すく成仏ありてん。や
 徳壽母が難波を殺せり。追捕ゆい。忽ち。あんが千
 十。このひき。大人。ゆりなり。か。蛾王をねく。鬼思とせへ。
 度りく。養を妨り。勢も女子の。ふまれば。よ。や。路に残るも。
 六波羅より。撈索。殺さんとす。安良子。た。勅。よ。
 船の往來ゆり。荒磯。三年。が。間。さ。ひ。二。人。中。は。只。一。人。
 遺されぬ。足。く。も。や。て。を。墓。る。く。り。め。め。顯。身。の。息。の。内。今。

一。と。び。の。め。あ。し。ゆ。ゆ。り。経。つ。が。為。お。過。七。の。追。薦。と。り。四。十。九。箇。
 日。果。る。や。ぐ。魂。魄。屋。棟。を。離。と。ど。と。世。の。い。ふ。と。も。く。魂。の。路。よ。と。
 中。の。あ。し。ゆ。ゆ。り。ゆ。瀬。ぞ。る。荒。海。を。流。り。鬼。の。名。も。負。人。鬼。界。
 鳴。み。の。り。と。あ。れ。の。世。の。ま。と。亡。母。を。墓。か。く。い。と。も。長。旅。の。疲。勞。
 たり。と。も。名。も。あ。ぬ。荒。磯。よ。送。ひ。く。虚。く。と。可。惜。光。陰。を。と。り。ま。せ。も。
 い。の。び。た。り。の。只。これ。の。い。と。基。安。と。の。ア。が。首。を。剣。と。相。國。よ。進。り。
 くの。い。ひ。果。と。又。を。枝。が。真。赤。の。鮮。血。に。浸。り。黒。髪。よ。白。く。膚。も。
 昔。さ。え。く。黄。ら。る。泉。へ。ぬ。り。る。覚。け。の。あ。く。も。同。胞。の。忍。び。う。ぬ。く。叫。び。
 泣。き。も。昔。倭。の。あ。つ。か。お。過。世。の。く。く。去。り。年。の。夏。の。暑。く。お。生。別。道。
 ち。この。春。の。母。の。前。は。死。別。と。る。業。周。の。昔。由。例。稀。ら。る。い。の。ま。一。言。
 徳。壽。と。も。鶴。の。前。と。も。び。く。と。く。と。左。右。の。空。骸。を。揺。

深川水場

胞兄才を
基安首級を
得く辱る

俊寛卷之三



動く。ゆゑ口鏡が安良子由。友音あが啼群鳥。求食ゆゑは浅は
 く。栄枯得喪面あやう。槐安國の夢の迹。蟻王が牙をかせり丹
 左の声を励し。詮るは悲難不時を殺し。難波が後者ぬり
 来うらば。蟻王一人より防んや。人あふまざる間。鶴の前と徳壽丸
 を扶掖す。さうらの処を立退く。それハ又案の前の首を引提て。絡
 ぬり難波が髪を縁故を審み。審みおぼえぬが。首級実檢ぶ果る。打
 屍ハ葬りてさうら。あがも。啼啼るりうら。といひ。綸しつ。刀を枝と。打
 落し。母の首を携り。逃し。とは。同胞を引留る。蟻王由安良子も。
 是を一世の別と。思ひ。おぼし。く。嘯くるを。見たり。ゆ。せ。せ。基安ハ
 又を。か。が。て。鞘。又。納。め。桂。の。袖。ハ。押。包。む。その。死。顔。と。は。白。と。肖。し。る。親
 子の。離。苦。哀。別。世。と。宇。治。川。の。水。も。と。て。逝。く。ぬ。ぬ。冥。土。の。旅。と。鬼
 界へ。渡。る。夏。旅。の。首。途。を。あ。が。く。の。さ。ら。基。安。み。づ。く。と。馬。と。牽
 り。首。級。を。鞆。に。結。ひ。著。す。因。り。と。う。ち。跨。お。し。ゆ。ぬ。れ。遠。く。出。立。へ
 後。者。ハ。教。え。て。さ。う。ら。と。丹。左。も。胸。を。れ。蟻。王。の。安。良。子。の。う
 と。由。基。安。又。言。語。の。さ。ら。く。告。別。泣。き。さ。る。同。胞。の。手。の。手。を。引。く
 かしら。河。原。の。さ。ら。く。長。き。さ。ら。ぬ。 (中山堂)

4 忠者 見

